

次世代を“育てる”ことがキーワード 将来を担う後継者を育成

取材・文 古賀千根

後継者育成のために

「自分がやりたいことを誠心誠意怠めて行動に移せば、必ずできるはずですよ」

力強い言葉でお話しされる内山晃次特別顧問。ペンニットー株式会社は、相模原市中央区にあるフッ素樹脂チューブ製造販売の会社です。社員は15名。納入先には株式会社力ネカや東京エレクトロン株式会社など大手企業の名前も並んでいます。

内山顧問は、社員個人が鮮明な目標を持ち、自発的な学習ができる環境を整えることに注力しています。目的は後継者の育成。そのために自社独自の教育を行っています。

教育法① 明確な目標設定

一つ目の独自教育は、“職務分掌”というものです。営業部長には営業部長の仕事、工場長には工場長の仕事、製造部長には製造部長の職務を文章化し、社員が将来どのようなになりたいか、明確な

目標を立てるための指標としています。

40歳になったときのことをあなたは具体的に想像できますか？結婚して子どもたちは小学校や中学校に通っています。そのとき仕事はどうなっているでしょう。製造部長を目指すのであれば、若い時期から製造部長になるための勉強



創業者の内山晃次特別顧問。

をしておくことが必要です。なりたい自分像”の明確な目標を立て、そこに行きつくための勉強をしておいたほうがスキル

教育法② 説明をする能力

二つ目に“理解する”ことを重視した教育を行っています。たとえば、工場長が品質管理や品質保証について質問されたとき、説明できなければ工場長は務まりません。営業であれば、マーケティングを説明できなければ営業ではないと内山顧問はお考えです。つまり理解しているだけでなく人に説明

できる能力を大切にしています。仕事の概要を答えるときには、自分の言葉を使うことが重要であると内山顧問は語ります。本を読むことは大切ですが、ただ読んでいてもダメ。時にはコミュニケーションやリーダーシップについて30字にまとめて出せ、というような宿題を社員に課することもありますが、読むだけでなく身につくように30字にまとめ、アウトプットすることで理解が深まるからです。このように、社員に教えるために内山顧問みずからも真面目に考えました。結果独自の教育法を編み出しました。

“育てる”環境



自由に使える読書スペース。

社内はとても掃除が行き届いています。社員の方々も丁寧で、気に遣いに溢れています。「人間として大人として恥ずかしくないような人間に成長してください」と、新入社員が入るたびに内山顧問は伝えていくそうです。掃除は全員で毎日取り組むとのこと。さらに内山顧問は緑が大好き。植物があると落ち着くそうです。植物を育てるには愛情がいるものですが、一日一回見てあげればしっかりと育つとおっしゃっていました。

内山顧問は仕事以外でもお忙しく活動されています。多摩市のスポーツ振興会に発足時から参加し

フッ素樹脂チューブ



ペンニットー株式会社 相模原事業所
神奈川県相模原市中央区田名塩田 1-2-6
TEL 042-777-3112 FAX 042-777-3101
http://www.penn-nitto.co.jp

次世代を“育てる”ことの原点は広島で過ごした少年時代にありました。中学は1クラス60人で15クラスもありました。喧嘩なども多く、先生から怒られることもあったそうです。しかしそれも愛情。この少年時代の経験が、愛情を持って若い社員を育てるという社風をつくる基盤となっているのかもしれません。ニッチな分野でトップを目指すためにリードしてきた内山顧問は、「いま若い人たちに夢を託しています。私を超えてほしい。」そう願っています。

“育てる”顧問の姿勢は普段の仕事の場面にも・・・